

(4) 南 関 東



南関東地域では、景気は回復の動きに足踏みがみられる。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は改善の動きに足踏みがみられる。

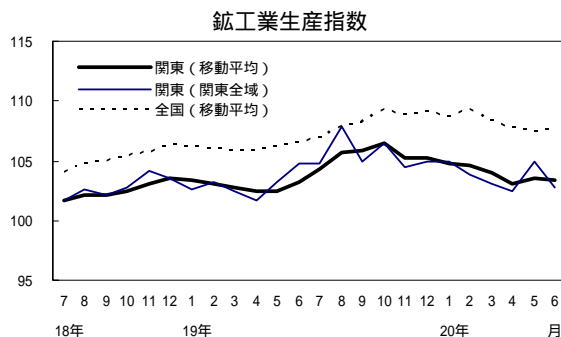
前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 20 年 5 月)	今回 (平成 20 年 8 月)	
景況判断	回復	回復の動きに足踏み	
個人消費	緩やかに回復	おおむね横ばい	
雇用情勢	着実に改善	改善の動きに足踏み	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。(関東全域)

輸送機械は、小型乗用車が好調であったものの、普通乗用車や二輪自動車が低調であったため、2四半期連続で減少している。化学は、原材料高により食品トレーに使われるスチレンモノマーや連結材のフェノールなどの樹脂を中心に生産調整が影響し、振るわなかったものの、医薬品が好調であったため、3四半期ぶりに増加している。一般機械は、国内及びアジア向けの半導体製造装置が不調であったため、2四半期連続で減少している。電気機械は、鉄道会社向け開閉制御装置、電力会社向け非標準変圧器が好調で、増加している。



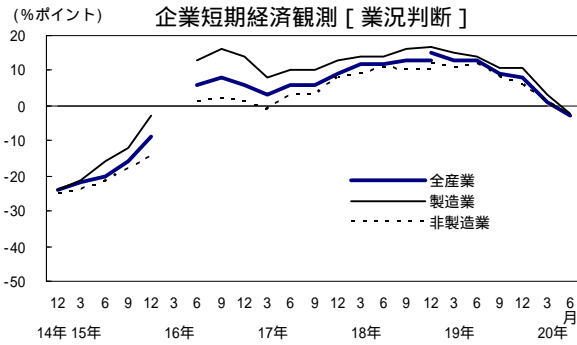
- (備考) 1. 17年=100、季節調整値、関東の最新月別速報値。
2. 全国及び関東の太線は後方3か月移動平均。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

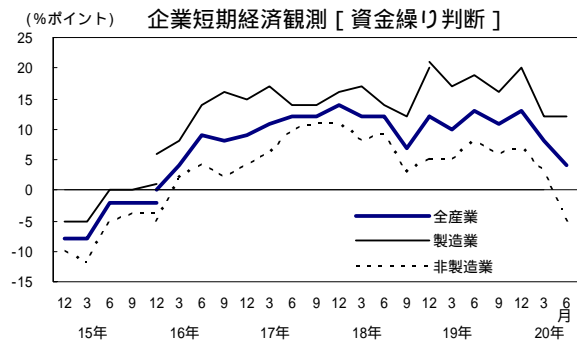
	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		1~3 月期	4~6 月期	4~6 月期	4~6 月期
輸送機械	15.2	3.8	0.4	0.4	5.4
化学	13.4	3.7	2.4	0.2	1.1
一般機械	13.2	3.6	3.2	0.3	9.1
電気機械	7.8	5.2	1.3	0.0	2.0
食料品・たばこ	7.1	2.8	2.1	0.1	
鉱工業	100.0	1.1	0.6	1.8	0.7

- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。
2. 4~6月期は速報値。
3. 食料品・たばこの在庫指数は公表されていない。

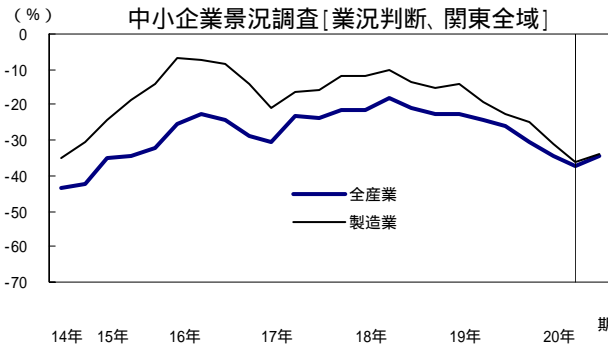
(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超に転じ、資金繰り判断は「楽である」超幅が縮小している。
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。
旧基準は15年12月まで。新基準は16年6月から。
18年12月は新・旧基準を併記。関東全域(新潟県を含む)



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。
旧基準は関東全域、新基準は神奈川県



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。20年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(7月)[企業動向関連(現状)]

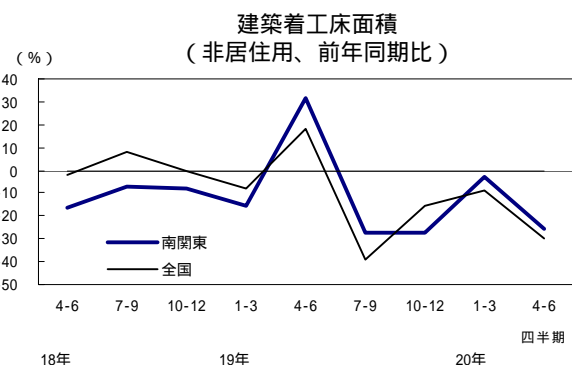
「客から原材料の高騰分の半分は値上げを認めるが、半分は企業努力でカバーしてほしいと厳しい要求をされている。すでに赤字になっている上での話なので、正常な状態ではない(輸送用機械器具製造業)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

(3) 20年度の設備投資は前年度を大幅に上回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(6月調査)]

	(前年度比、%)	
	19年度実績	20年度計画
全産業	17.9(0.2)	10.3(8.8)
製造業	24.7(1.9)	10.1(13.3)
非製造業	3.6(3.5)	10.6(0.4)

(備考)()は前回(3月)調査比修正率。
調査対象は神奈川県



2. 需要の動向

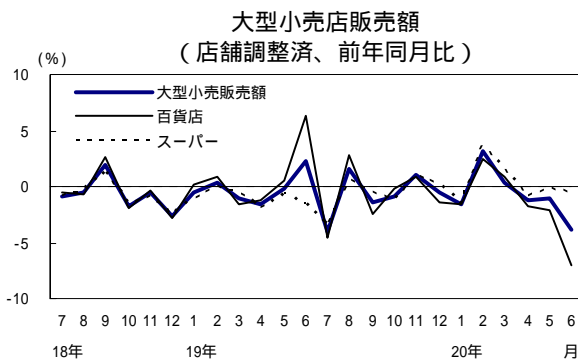
(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、4月は、雨が多く、主力の衣料品や身の回り品が低調であり、前年を下回った。5月は、国産野菜や洋菓子等の飲食料品は好調であったが、衣料品では婦人物ブラウスやスカートに動きがあったものの全般では伸びず、前年を下回った。6月は、クールビズ商材に動きが見られたもの、多雨低温であったことから、衣料品全般および身の回り品が振るわず、また前年は6月末だったクリアランスセール初日が7月となったことから前年を下回った。なお、日本百貨店協会によると、東京地区の7月の売上高は前年同月比0.9%減となっている。スーパーは、「母の日」「中元」など催事への対応や、手作り志向の高まりから飲食料品は好調であったが、衣料品が振るわず、全体としては前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(7月)[家計動向関連(現状)]

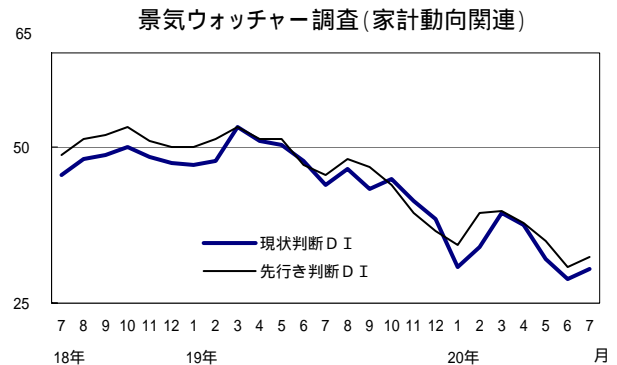
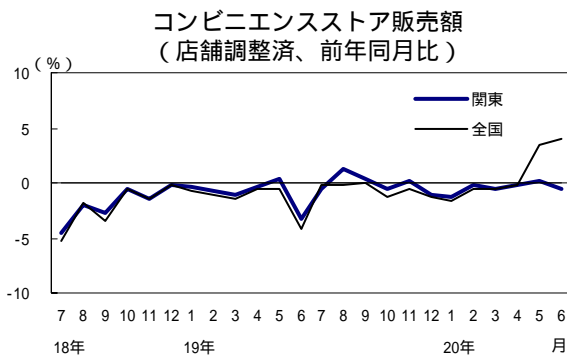
「先日当地域で行われた朝顔市では、例年より集客は多かったが、購入段階になると財布のひもが固かった。従来だと2~3鉢買う人もかなりいたが、今年は1鉢しか購入しておらず、前年比で2割減少している(商店街)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。



	(前年同期比、%)			
	19年7-9月	10-12月	20年1-3月	4-6月
大型小売店	1.5	0.2	0.4	2.1
百貨店	1.8	0.3	0.2	3.8
スーパー	1.2	0.0	1.0	0.5
コンビニ	0.3	0.5	0.7	0.2
景気ウォッチャー	44.5	41.5	34.7	32.7

(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。20年4-6月期は速報値。コンビニは関東全域。

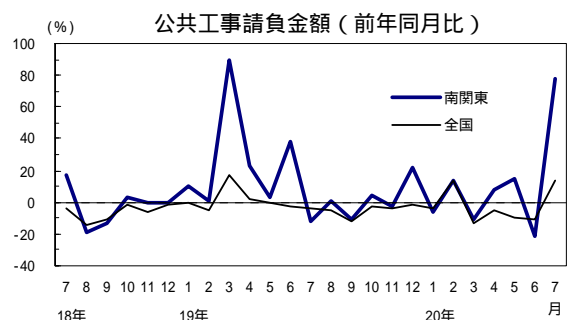
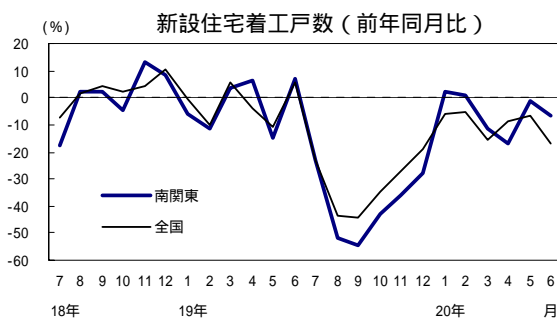
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断DIの3か月平均。



(2) 住宅建設は減少している。

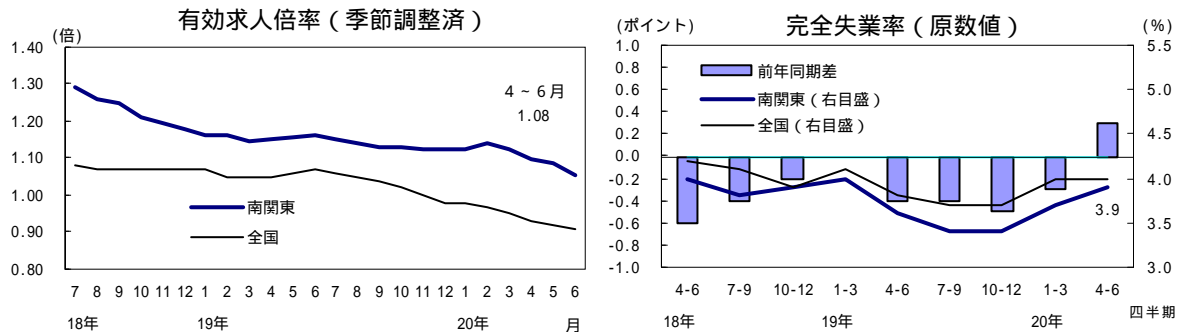
貸家、持家、分譲、給与すべてにおいて前年を下回ったことから、全体でも減少している。

(3) 公共投資は20年度累計で見ると前年度を上回っている。



3. 雇用情勢等

- (1) 雇用情勢は改善の動きに足踏みが見られる。
 有効求人倍率及び完全失業率
 有効求人倍率は低下している。完全失業率は前年同期を上回っている。

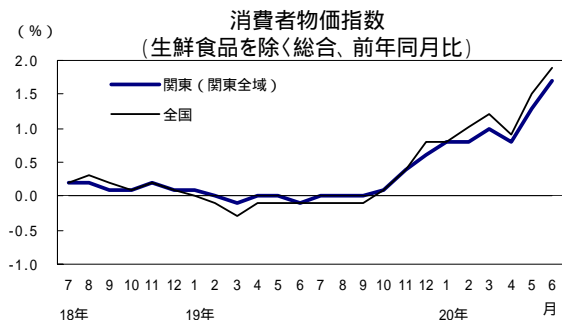


景気ウォッチャー調査 (7月)[雇用関連(現状)]
 「今月は会社都合で退職する人が目立っている(職業安定所)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

- (2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに増加している。
 7月に負債総額が大幅に増加している。
- (3) 消費者物価指数は前年比の上昇幅が拡大している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	19年7-9月	10-12月	20年1-3月	4-6月	20年7月
倒産件数	1,015	1,044	1,031	1,113	411
(前年比)	14.7	7.0	2.8	13.3	12.3
負債総額	9,022	5,018	5,860	8,130	2,738
(前年比)	273.7	3.3	13.3	62.6	117.0



景気ウォッチャー調査 (7月)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

- 金融機関の不動産業と建設業に対する融資姿勢が一段と厳しいものになっており資金繰りがひっ迫し、連鎖倒産が相次いでいる(金融業)

<先行き>

- 当ショッピングセンターの駐車台数が7月に入り前年比 85%となり、ガソリン高騰の影響を直に受けている。ガソリン価格の更なる高騰と生活用品の更なる値上がりにより、確実に消費収縮へ向かう(スーパー)

景気ウォッチャー調査(合計)

